

各 位

会 社 名 株式会社東邦システムサイエンス 代表者名 代表取締役社長 渡邉 一彦 (登録銘柄・コード番号 4333) 問合せ先 取締役管理本部長 高橋 誠 (TEL.03-5940-4031)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 16 年 5 月 19 日の決算発表時に公表した平成 17 年 3 月期(平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日)の中間期及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1 . 平成 17年3月期中間連結業績予想数値の修正(平成16年4月1日 ~ 平成16年9月30日)

(単位:百万円、%) 中間純利益 売 上 高 経常利益 発 表 予 想(A) 2,020 1 3 7 7 2 回 前 今 回 修 正 予 想(B) 1,863 6 7 3 5 増 減 額(B-A) 157 7 0 3 7 増 減 7 . 8 51.1 51.4 率(%) (ご参考) 1,877 4 2 2 2 前期実績(平成15年9月中間期)

2. 平成 17年3月期中間業績予想数値の修正(平成 16年4月1日 ~ 平成 16年9月30日)

(単位:百万円、%)

						売 上 高	経常利益	中間純利益
前	回	発	表	予	想(A)	2,000	1 3 2	7 1
今	回	修	正	予	想(B)	1,836	6 0	3 2
増		減		額	(B-A)	1 6 4	7 2	3 9
増	減				率(%)	8 . 2	54.5	54.9
	(ご参考) 前期実績(平成 15 年 9 月中間期)				月中間期)	1,848	3 5	1 9

3. 平成 17 年 3 月期連結通期業績予想数値の修正(平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日) (単位:百万円、%)

						売 上 高	経常利益	当期純利益
前	回	発	表	予	想(A)	4,400	3 7 6	2 0 0
今	回	修	正	予	想(B)	4,150	2 4 0	1 3 5
増	減			額	(B-A)	2 5 0	1 3 6	6 5
増		減 率(%)			率(%)	5 . 7	36.2	3 2 . 5
	(ご参考) 前期実績(平成 16 年 3 月期)				■3月期)	4,093	2 3 1	1 2 9

4. 平成 17年3月期通期業績予想数値の修正(平成16年4月1日 ~ 平成17年3月31日)

(単位:百万円、%)

						売 上 高	経常利益	当期純利益
前	回	発	表	予	想(A)	4,350	3 6 0	1 9 2
今	回	修	正	予	想(B)	4 , 1 0 0	2 2 0	1 2 5
増		減		額	(B-A)	2 5 0	1 4 0	6 7
増		減 率(%)			率(%)	5 . 7	38.9	3 4 . 9
	(ご参考) 前期実績(平成 16 年 3 月期)					4,036	2 0 8	1 1 6

5.修正の理由

(1) 単独業績予想

当中間期は、期初に見込んでいた案件の延期や、規模が想定していたほど拡大しなかったことなどにより、売上高は前回発表予想値に対し7.8%程度届かない見通しです。また利益面では、前期の主たるマイナス要因でありました大型プロジェクトにおいて、テスト工程に移ってからの障害が想定より多く発生し、予定原価を超過する状況が続いたことにより、経常利益及び中間純利益が前回発表予想値を下回る見通しとなりましたので、業績予想を修正することといたしました。

なお当期は、利益確保に向けての最大のファクターである、プロジェクト運営を強化するため、ISO9001 に基づき構築した、品質マネジメントシステムの本格運用年度と位置付け、期初より取り組んでおります。加えて、前述の不採算プロジェクトにつきましても、今後は原価の改善が見込まれることにより、下半期は当社の主力業務であるソフトウェア開発における利益率の改善が図られるものと考えております。

また通期の業績につきましても、価格の下落や競争の激化、開発規模の縮小などを勘案し、通期業績予想を修正することといたしました。

(2) 連結業績予想

連結業績予想の修正は、主に単独業績予想の修正によるものであります。

以 上

(注) この資料に記載しております売上高および利益の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。 従いまして、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により、実際の売上高および利益は 当該予想とは異なる結果となることがあります。